2024.1.26 鉄鋼新聞

藤澤鋼板のシャー事業会社
ベストスチール

シャーリング機1台更新

藤澤鋼板の事業会社でシャーリング加工専業のベストスチール

（社長は藤澤鋼板の藤澤鐵雄会長が兼任）は、シャーリングマシンを1台新設し、1月中旬から本格稼働を開始した。SAPH440規格材で板厚6・5ミリ、板幅1270ミリまでに対応する。

本稼働を始めた新設シャー

導入したのはメカニカルシャー「DCT―1265」（アマダ製）。

今回は、稼働開始から27年が経過した老朽化設備との更新のため、シャー保有台数計5台は変わらないが、最新のマシンによる切断品質・精度の向上と切断スピードアップによって生産性を高めたのが特長だ。各種操作を一括制御できるタッチパネル形式のため作業性も向上。現場オペレータの省力化にもつなげている。

ベストスチールは1994年に藤澤鋼板のシャー部門を分離独立して操業を開始し、今年で30年となる。

藤澤鋼板の構内（千葉県浦安市鉄鋼通り2―6―6）の一角に用地を賃借し、最大板厚14ミリ、最小幅300ミリから最大幅3050ミリまで（すべてSAPH400ベース）の切板加工に対応。足元は自動車向けを主体に5台あわせて月産約1千トンをこなす。藤澤鋼板が最大顧客だが、浦安鉄鋼団地内をはじめ同業コイルセンターなどからの受注も多い。

今回の設備更新で品質面や即納対応力が増したことをアピールし、受注促進につなげていきたい考え。

藤澤鋼板グループ

ベストスチール、シャー1基更新

藤澤鋼板グループ会社のベストスチール（藤澤鐵雄社長）は、1月からシャーリング設備を1基更新した。同社は5基のシャーリング設備を保有しており、最も稼働年数が多い5号シャーを更新。アマダのDCT―1265を導入した。

新設備の対応サイズは板厚6・5ミリまで、板幅1250ミリまでとなっている。同社はトラック・建機向けの加工を得意としており、藤澤鋼板の2次加工を請け負っている。月間加工能力は約1千トン。設備更新により品質精度を高めた。

2024.1.26 日本金属通信